

2024年度 共同研究 公募要項



1. 本公募事業の趣旨・目的

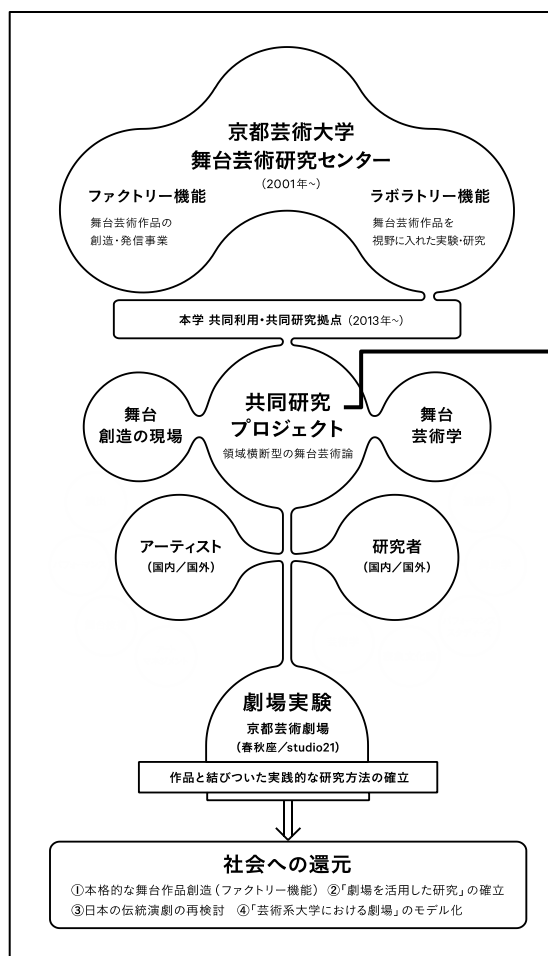
京都芸術大学 舞台芸術研究センター〈舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点〉では、2013年度より、舞台芸術作品の「創造」(＝ファクトリー機能)だけではなく、作品が生み出されていく「創造のプロセス」に焦点をあてた「研究」や「実験」(＝ラボラトリー機能)に、継続して取り組んできました。

本公募事業では、この「ラボラトリー機能」に関わるプロジェクトとして、研究と芸術創造の有機的な結合を通じて、舞台芸術の新たな可能性を探求する共同研究を、二つのカテゴリー(【劇場実験型】、【リサーチ支援型】)で募集します。

研究テーマについては、研究チームの自由な発想からなる【自由テーマ】、または「舞台芸術とテクノロジー」を主題とする【課題テーマ】のいずれかで応募が可能です。

なお本公募事業では、舞台芸術の創造と研究の協働を踏まえた、演劇・ダンス・伝統芸能・音楽・美術・映像・AR・VR・教育などの幅広い分野に関わる領域横断的な研究を推奨しています。

創造と研究の融合—新たな舞台芸術の「場」



ラボラトリー機能

芸術活動の根幹となる作品の「創造」と、「創造」に必要なヒントやインスピレーションをもたらす「研究」とを、実践的に融合する「芸術系大学」の社会的使命という視点から、アーティストと研究者・批評家が共同研究チームを組み、「創造のプロセス」を構築していく機能を指します。

共同利用研究プロジェクト

(I) 【劇場実験型】

京都芸術劇場(大劇場:春秋座、小劇場:studio21)を活用した「劇場実験」を研究プロセスの中心に据え、研究者とアーティスト・舞台技術者等の協働による研究チームによって行われる研究プロジェクトを指します。

創造と研究の連携を通じた実践的な研究が支援対象であり、新たな舞台芸術のヴィジョンを構想する先駆的な研究を推奨しています。(左図参照)

(II) 【リサーチ支援型】

本格的な作品上演に至る前段階の「リサーチ」を中心とする研究プロジェクトを指します。フィールドワークや文献調査など、舞台芸術の新生面を開くことを目指す取り組み、その他、将来的な劇場実験を見据えた挑戦的・萌芽的リサーチ活動を推奨しています。

2024年度 劇場実験型・リサーチ支援型公募の募集について

京都芸術大学〈舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点〉では、2014年度から【劇場実験型】の研究公募を実施してきました。2019年度から【リサーチ支援型】のカテゴリーを新設することで、できるだけ多くの方々に本研究拠点のリソースを提供し、未来の舞台芸術の可能性を切り拓く研究・実験をサポートする環境整備に努めてきました。

昨今、舞台芸術のありかたを再考するときをむかえています。本研究拠点では、混沌とする国際秩序や社会情勢、また自然災害や気候変動の動向など、数多くの問題が芸術を取り巻いている状況を考慮しつつ、研究チームの自由な発想からなる【自由テーマ】、「舞台芸術とテクノロジー」を主題とする【課題テーマ】という二つのカテゴリーで、研究公募を行っています。

新たに設定した【課題テーマ】では、「テクノロジー」を広義にとらえ、舞台芸術の表現手段としての先端技術の探求のみならず、メディア・テクノロジーを駆使したコミュニケーションの創発など、人文科学的な視座に立つ独創的な研究も推奨しています。

審査にあたっては、【自由テーマ】と【課題テーマ】を分け隔てなく扱い、優れた研究計画と認められるプロジェクトを採択することになります。応募を検討される皆さんには、ご自身の関心と、上記のような本研究拠点の問題意識とをあわせて考慮した上で、充実した研究計画をご準備いただければ幸いです。

(1) 【自由テーマ】

自由テーマでは、舞台芸術の創造・受容に関わる、これまでに無い新たな発想による研究計画を募集します。「伝統」と「現代」のクリエイティブな融合を目指す研究や、舞台芸術史の再検証を通じて現代芸術の可能性の再検証を目指す研究、あるいは芸術大学における劇場という特色を活用した「大学の劇場」の社会的役割モデルの発信など、「創造」と「研究」が領域横断的に結びついた、自由な発想による研究計画をお待ちしています。

(2) 【課題テーマ】

課題テーマでは、「舞台芸術とテクノロジー」を主題とする研究プロジェクトを募集します。「舞台芸術とテクノロジー」の新たな関係性を見つめ直す劇場実験やリサーチなど、「創造」と「研究」の横断的な発想を通じた意欲的な研究計画をお待ちしています。

2020～2023年度 共同研究、採択課題

劇場実験型

- ・ 蘇るバレエ・リュス:薄井憲二バレエ・コレクションの同時代的/創造的探究 | 研究代表: 関典子 | 2023年度
- ・ アフォーダンス・コレオグラフィ 誘導の振付 | 研究代表: ハラサオリ | 2022年度
- ・ GEIST―「多元な音響空間」の実現に向けた自動演奏楽器、入出力装置、および作曲・演奏法の開発 | 研究代表: 石川琢也 | 2021年度
- ・ 多層化手法による音楽詩劇の創作と上演～アコースモニウムを中心とした音楽と映像、言葉の融合～ | 研究代表: 檜垣智也 | 2020年度 (2022年度 延期実施)
- ・ 多和田葉子の演劇～連続研究会と『夜ヒカル鶴の仮面』アジア多言語版ワーク・イン・プログレス上演～ | 研究代表: 谷川道子 | 2020年度 (2021年度 延期実施)

リサーチ支援型

- ・ 「hysteria」プロジェクト(女性)の身体への眼差しを転じるリサーチ・ダンスの試み | 研究代表: 松本奈々子 | 2023年度
- ・ アッピア演出『オルフェオとエウリディーチェ』(1913)をモデリングする | 研究代表: 横田宇雄 | 2023年度
- ・ 環境配慮型の舞台芸術創作のための、国内の舞台芸術と環境についての基礎調査及び英国他ヨーロッパのサステイナブルプロダクションの実例調査 | 研究代表: 大島広子 | 2023年度
- ・ 「明日の寓話」プロジェクト―人間と非人間の新しいナラティブの創作に向けて | 研究代表: 佐藤朋子 | 2022年度
- ・ 「インスタレーション/パフォーマンス」における身体と空間 | 研究代表: 楊いくみ | 2022年度
- ・ 近代的な個の輪郭をほどこく演技体―『ab さんご』を経由して、劇作論をしたためる― | 研究代表: 西尾佳織 | 2022年度
- ・ 罵倒の作法―求められる怒りと憎しみの表現形式を巡って― | 研究代表: 木村悠介 | 2021年度
- ・ 演劇におけるポリフォニー: 集団創作のプロセスと作品の構造をめぐって | 研究代表: 松尾加奈・楊淳婷 | 2021年度
- ・ 振動は最小のダンスである | 研究代表: 神村恵 | 2021年度
- ・ 失われた犬牽の芸能犬―始原演劇の復元に挑む― | 研究代表: 萩島大河 | 2020年度
- ・ 眩きにひそむ現代のこぼ、身体、音楽―尾崎放哉に学ぶ | 研究代表: 白神ももこ | 2020年度
- ・ レクチャーパフォーマンス制作とその翻訳に向けて: 崔承喜をめぐるダンスとことば | 研究代表: Yuni Hong Charpe | 2020年度

【I】劇場実験型 募集要項

【劇場実験型】は、京都芸術劇場（大劇場：春秋座、小劇場：studio21）を活用した「劇場実験」を研究プロセスの中心に据え、研究者とアーティスト・舞台技術者等の協働による研究チームによって行われる研究プロジェクトを指します。創造と研究の連携を踏まえた実践的な研究が支援対象であり、新たな舞台芸術のヴィジョンを構想する先駆的なプロジェクトを推奨しています。

▶公募対象

舞台芸術（演劇、ダンス、伝統芸能、ジャンル横断的なパフォーマンス・アーツなど）に関する取り組み。京都芸術劇場（春秋座・studio21）を活用して行われる、以下のいずれかにあてはまる実践的な研究プロジェクトが対象となります。

- ・研究者とアーティストの協働による、舞台芸術の作品創造に向けた実験。
- ・研究者を中心とする、劇場を活用した研究プロジェクト。
- ・舞台技術者を中心とする劇場機構の可能性を開発・探究する研究プロジェクト。

※ 研究計画が複数年度にわたるプロジェクトの申請も可能ですが、審査では2024度の活動について採否を決定します。

▶応募資格

原則、以下のいずれかにあてはまる方を研究代表者としてください。

- ・大学等研究機関に所属する研究者、アーティスト、舞台技術者（いずれも常勤・非常勤は問わない）。
- ・舞台芸術や周辺ジャンルの創造・制作現場に携わるアーティスト、技術スタッフ、批評家、プロデューサー、コーディネーター、ドラマトルクなど。
- ・国内・海外の大学院を修了し、博士の学位を得ているか、またはそれに準ずる研究業績を有する者。

※ 日本学術振興会特別研究員など他機関の専従義務がある研究者は、研究代表者になることはできません。研究分担者、研究協力者として参加は可能ですが、その場合、専従義務のある機関に本人の責任で届け出を行う必要があります（日本学術振興会特別研究員の場合、PDに限ります。DC1、DC2は研究分担者、研究協力者にもなることはできません）。

▶研究チームの編成

以下を含むかたちで研究チームを編成してください。

- ・研究代表者：研究の中心的役割を担う者（プロジェクトのリーダー）。
- ・研究分担者：共同で研究を行い、研究遂行の責任を分担する者（プロジェクトのコアメンバー）。
- ・研究協力者：研究遂行のために協力する研究者、アーティスト、舞台技術者等。

※ 劇場実験の実施にあたっては、劇場使用に係る手続き・調整が発生するため、分担者もしくは協力者の中に、必ず1名以上、マネジメント担当者をおいてください（舞台制作の経験がある方が望ましい）。また申請書には、劇場実験の進行管理や技術的業務の担当者について、可能な限り具体的に記入してください。

※ 研究チームが、複数の大学等研究機関に所属する研究者・アーティスト・舞台技術者で構成されることを推奨しています。

※ 研究代表者が大学や研究機関等に所属している場合には、所属機関の了承を得た上で応募してください。また研究代表者は、申請に際してあらかじめ研究分担者に参加の内諾を得てください。

※ 研究代表者・研究分担者に対する企画料等は、採択額の総額に対して20%まで（研究代表者・研究分担者への支出合計額）、研究協力者には担当業務に応じた金額の謝礼（課税報酬料支出）を予算に計上することが可能です（2021年度改訂*）。

* 日本学術振興会の規定改訂を参考に、研究代表者・分担者の「研究力向上／強化」のため本公募事業においても新たな規定を導入します。

▶劇場および使用可能な設備

【劇場実験型】の研究公募では、原則、京都芸術劇場(春秋座・studio21 のどちらか)を会場とする最終的な研究成果の発表を想定しています。

劇場を使用して研究発表を行う計画では、研究プロジェクトの目的・内容に即した劇場の使用法の概要について、申請書に明記してください。採択後に、本研究拠点事務局と申請者で相談・調整の上、使用スケジュールを決定します。なお原則、本研究拠点側が最低限の劇場管理スタッフの手配を負担し、申請者側が舞台の仕込みや機材のオペレーションを担当するスタッフ等の手配を負担することになります。

※ ただし COVID-19をはじめとする新型コロナウイルスの社会的影響が依然として存在し続けている現下の状況や、劇場をめぐる諸事情に鑑み、【劇場実験型】公募において、京都芸術劇場の使用を必須条件としない研究活動について、適宜、本拠点と申請者との間で、協議を行います。

・春秋座 (大劇場)

観客席・舞台ともに本格的な歌舞伎スタイルを基本としながらも、現代劇の上演にも対応できる設計が特徴です。歌舞伎のための花道、廻り舞台、鳥屋を設置する一方で、オペラのためのオーケストラピットを設け、各種の舞台表現に活用できる工夫が凝らされています。

※ 施設の詳細については、京都芸術劇場 HP をご覧ください。

・studio21(小劇場)

現代演劇やダンス、パフォーマンスなど、多様な舞台芸術のための実験空間です。移動可能な照明設備や音響装置を備え、天井グリッドには機材や美術装置を自在に吊ることができます。客席用ひな壇は組替式で、スペースの縦使いや横使いも自由です。

▶研究対象期間 : 2024年4月1日～2025年3月31日

(本学予算執行の都合上、2025年2月末までに研究活動が終了する研究プロジェクトが望ましい)

▶研究予算 : 1件あたり年間 250万円を上限とする

(採択された研究プロジェクトには、上記の範囲内で必要と認められた研究費を、本研究拠点が支給する)

▶採択件数 : 2件程度を予定

▶応募方法

- ・ 公募要項、申請書の様式は、本拠点のウェブサイト (https://k-pac.org/edit_openlab/open-call/) より、ダウンロードしてください。
- ・ 研究代表者として申請できるのは、1人につき1件までです。
- ・ 申請書に必要事項を記入の上、E-mail にて共同利用・共同研究拠点事務局 (kyoten@kua.kyoto-art.ac.jp) 宛に、以下の情報・添付書類を提出してください。

件名 : 2024年度【劇場実験型】応募

本文 : 研究課題名、代表者名、連絡先を明記してください。

添付 : 2024年度【劇場実験型】公募申請書 ※PDF形式のファイルを添付してください。

※ 選考結果は 2023 年 11 月末までに 採否いずれの場合も、応募者宛にメールにて通知します。

※ 応募メールを受信後、3 日程度で受領確認の返信をします。返信が届かない場合には、お手数ですが本拠点事務局までお問い合わせください。

※ 【劇場実験型】公募の採択は、京都芸術劇場の使用を確約するものではありません。採択後、研究活動の開始前に、劇場の使用について、本拠点と申請者との間で、事前に協議する機会を設けます。

公募期間 : 2023 年 6 月 12 日 (月) ~ 8 月 31 日 (木) 23:59 まで (必着)

【Ⅱ】リサーチ支援型 募集要項

【リサーチ支援型】は、本格的な作品上演に至る前段階の「リサーチ」を中心とする研究プロジェクトを指します。フィールドワークや文献調査など、舞台芸術の新生面を開くことを目指す取り組み、その他、将来的な劇場実験を見据えた挑戦的・萌芽的なリサーチ活動を推奨しています。

▶公募対象

先進的な発想からなる舞台芸術作品の創作に係る学術研究や実地調査、または劇場実験を将来的に見据えた挑戦的・萌芽的なリサーチ活動。

▶応募資格

研究者、アーティスト、技術者、制作者などの別を問わず応募できます。

※ 映像・美術・音楽など、パフォーマンス・アーツ以外のジャンルとの横断的な試みも対象となります。

※ 本カテゴリーでは、原則、同一の研究代表者により計画される複数年度にわたるプロジェクトの継続採択は原則行いません。

▶研究チームの編成

個人またはチームによる申請、いずれも可能です。編成に関する指定はありません。

※ 本カテゴリーでは、研究代表者・研究分担者に対する企画料等を支払うことはできません。

▶研究対象期間 : 2024年4月1日～2025年3月31日

(本学予算執行の都合上、2025年2月末までに研究活動が終了する研究プロジェクトが望ましい)

▶研究予算 : 1件あたり年間 60万円を上限とする

(採択された研究プロジェクトには、上記の範囲内で必要と認められた研究費を、本研究拠点が支給する)

▶採択件数 : 3件程度を予定

▶応募方法

- ・ 公募要項、申請書の様式は、本拠点のウェブサイト (https://k-pac.org/edit_openlab/open-call/) より、ダウンロードしてください。
- ・ 研究代表者として申請できるのは、1人につき1件までです。
- ・ 申請書に必要な事項を記入の上、E-mailにて共同利用・共同研究拠点事務局 (kyoten@kua.kyoto-art.ac.jp) 宛に、以下の情報・添付書類を提出してください。

件名 : 2024年度【リサーチ支援型】応募

本文 : 研究課題名、代表者名、連絡先を明記してください。

添付 : 2024年度【リサーチ支援型】公募申請書 ※PDF形式のファイルを添付してください。

※ 選考結果は2024年1月末までに採否いずれの場合も、応募者宛にメールにて通知します。

※ 応募メールを受信後、3日程度で受領確認の返信をします。返信が届かない場合には、お手数ですが本拠点事務局までお問い合わせください。

公募期間 : 2023年8月1日(火)～10月31日(火) 23:59 まで (必着)

【COVID-19をはじめとする新型感染症等への対応について】

COVID-19をはじめとする新型感染症に関して、政府が新たな基本的対処方針を示し、また業種別ガイドラインが廃止されていることから、本拠点では対策事項の解除を段階的に進めています。

ただし新型感染症の社会的影響が依然として存在し続けている現下の状況に応じて、引き続き適切な感染対策や衛生管理に努め、基本的事項は、文部科学省の「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」、ならびに下記の京都府の方針、公立文化施設協会・緊急事態舞台芸術ネットワークの対応に従い、本学の指針に則り事業を運営します。

◆文部科学省

学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル

https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_00029.html

◆京都府

イベントを開催されるにあたって

https://www.pref.kyoto.jp/kikikanri/news/corona_230428taiou.html

【新型コロナウイルス感染症】5月8日以降の対応について

https://www.pref.kyoto.jp/kikikanri/news/corona_230428taiou.html

◆公立文化施設協会

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付け変更に伴う劇場、音楽堂等における感染対策のご案内

<https://www.zenkoubun.jp/info/2023/pdf/0428.pdf>

◆緊急事態舞台芸術ネットワーク

「舞台芸術公演における新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」の廃止について

<https://jpasn.net/cn1/20230502.html>

「新型コロナウイルスの感染拡大に伴う研究活動の実施に関する対応」について定めた 2022 年度の公募要項については、今後の感染状況により再び国や自治体による制限が課せられた際、その対処のための参考資料として本拠点にて保管いたします。

なお京都芸術劇場では、今後も感染症等の状況の変化を踏まえ、国・自治体の情報を受けて、必要に応じて、感染対策の方針を更新する可能性があります。

◆京都芸術劇場

公演へご来場のお客様へ

<https://k-pac.org/information/>

選考委員・留意事項等（Ⅰ・Ⅱ共通）

▶選考・審査

- ・ 審査・選考にあたっては、独創性、実現性を基準として総合的に評価し、本拠点の 2023 年度運営委員から構成される審査委員会において採否を決定します。
- ・ 選考結果公表前の採否に関するお問合せはご遠慮ください。

▶留意事項

- ・ 応募方法は E-mail のみとなります（郵送・持ち込みでは受け付けていません）。期日を過ぎての申請、ならびに規定の様式・データ形式以外での書類提出は受理することができません。また提出後の書類の差替えは認められませんので、ご注意ください。
- ・ 研究費の最終的な支給額は、審査会での審議を経て決定します。申請金額・満額とならない場合もありますのでご了承ください。
- ・ 劇場・大学施設の使用については、本学ならびに舞台芸術研究センターの催事・授業等との調整が必要となるため、採択後に調整を行います。
- ・ 採択後、当該研究活動における予算執行は、京都芸術大学及び本拠点の定める規定にもとづき行っていただきます。研究遂行に直接必要と認められる支出以外の予算執行はできません。また本研究費で公開研究会等のイベントを有料で開催することはできませんので、ご了承ください。
- ・ 本研究費で購入した図書、視聴覚資料、機材などは、原則、研究期間が終了した時点で本学の備品となります。なお採択された公募研究プロジェクトの参加者は、共同利用・共同研究拠点の図書、資料等を必要に応じて利用することができます。

本拠点は、研究活動におけるハラスメントを防止するために、「学校法人瓜生山学園 京都芸術大学 ハラスメント防止に関するガイドライン」に則り事業を運営しています。

<https://www.kyoto-art.ac.jp/student/life/harassment/pdf/guideline.pdf>

※ 上記は指針となる大学のガイドラインとなります。実際に、ハラスメント問題の懸念があると判断される場合には、すみやかに事態を把握し、被害者の権利・尊厳に配慮して対処することに努め、研究活動の実情に即してしかるべき防止策および対応策を講じてまいります。

【研究プロジェクト終了後の報告について】

- ・ 採択された研究プロジェクトには、①研究事業報告会での研究報告（口頭プレゼンテーション）、②アニュアルレポートとして公開する研究報告書の執筆（アニュアルレポート）、を行っていただきます。報告日程については、採択後の調整となります。
- ・ 当該研究期間が終了後に行う成果発表等については、事前に拠点事務局に申告していただきます。その他、当該研究に関連する発展的な取り組み（公演、研究発表、執筆など）を実施する際は、広報物に「京都芸術大学〈舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点〉」のクレジットを表記いただきます。

京都芸術大学 舞台芸術研究センター（舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点）

2023年度 運営委員

運営委員長（拠点リーダー）

河田 学（京都芸術大学芸術学部学部長／同文芸表現学科教授／文学理論・記号論）

委員

天野 文雄（大阪大学名誉教授／能楽研究）

安藤 善隆（京都芸術大学舞台芸術研究センター所長／同教授）

内野 儀（学習院女子大学国際文化交流学部日本文化学科教授／舞台芸術論・批評）

大田 和司（京都芸術大学舞台芸術研究センター技術監督／舞台監督）

岡田 蒔子（京都芸術大学芸術学部舞台芸術学科専任講師／演劇研究）

岡村 恵子（東京都現代美術館学芸員）

小崎 哲哉（京都芸術大学大学院芸術研究科教授／ICA 京都『REALKYOTO FORUM』編集長）

川村 毅（ティーフクトリー主宰／劇作家・演出家）

北村 明子（信州大学人文学部教授／振付家・ダンサー）

木ノ下 裕一（木ノ下歌舞伎主宰／補綴家・ドラマトゥルク）

中島 那奈子（ダンス研究・ダンスドラマトゥルク）

長島 確（東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科准教授／ドラマトゥルク）

中山 和也（京都芸術大学芸術学部情報デザイン学科／大学院芸術研究科教授／ICA 京都副所長）

平井 愛子（京都芸術大学芸術学部舞台芸術学科教授／演技論・プロデューサー）

星野 太（東京大学大学院総合文化研究科准教授／美学・表象文化論）

宮 信明（京都芸術大学芸術学部通信教育部芸術教養学科准教授／芸能史研究・伝統芸能研究）

森山 直人（多摩美術大学美術学部演劇舞踊デザイン学科教授／演劇批評）

矢野 浩二（京都芸術大学芸術学部キャラクターデザイン学科／マンガ学科教授）
吉野 さつき（愛知大学文学部人文社会学科現代文化コースメディア芸術専攻教授）

▶お問い合わせ

京都芸術大学 舞台芸術研究センター 共同利用・共同研究拠点事務局

〒606-8271 京都府京都市左京区北白川瓜生山 2-116

TEL:075-791-9144

E-mail:kyoten@kua.kyoto-art.ac.jp

共同利用・共同研究拠点ウェブサイト <https://k-pac.org/openlab/>

京都芸術劇場ウェブサイト <https://k-pac.org/>